

運動体設計：活動報告2025年度

研究代表者：瀬川 晃 研究分担者：赤松 正行

研究補助員：志村翔太

履修学生：片倉 洸一 | 小峯愛華 | 鈴木光泰 | 福井悠人 | 松本朋己 | 寺田博亮 | Rahmat Muhammad Fikri

研究期間：2023 - 2025年度

研究概要

運動体とは、時間の経過とともに空間内の位置が変化する現象や活動と定義し、動機（motive）となる題材（motif）を見つけ、日々の実践を遂行するための知見や方法論を探索します。ラースロー・モホイ＝ナジ（1947）の言葉に基づき、知性と感情を、社会的要素と技術的要素のバランスを取った状態に保つことを出発点とし、アイデアを具体化するプロセスを検証し、公開することを目指します。

このプロジェクトは、任意のグループ「クリティカル・サイクリング（2016年～）」の実践を基盤とし、萌芽プロジェクト「プラクティカル・サイクリング」を経て、研究参加者との定期的な意見交換を通じて実施されています。

手法としては、クリティカル・サイクリングが自転車に乗ることを批評的に捉えている点に着目し、このプロジェクトでは何らかの「運動体」に関連する実践が、芸術的、社会的、学術的な意義を持つかどうかを検証します。ここでの実践とは、グラフィックを作る、詩を作る、映像を作る、ワークショップを作る、など様々な展開が想定されます。

クリティカル・サイクリング：<https://criticalcycling.com/>

2025年度は、実践・調査・表現が総合的に収束し、自転車を媒介とした「運動体設計」が新たな位相へ到達した一年であった。初夏のオープンハウスでは、クリティカル・サイクリングと運動体設計の共催による「早朝盛夏ライド2025」を契機として、身体覚醒と感覚装置としての自転車／メディア実験の可能性を提示した。オープンハウスの空間は、単なる記録公開の場ではなく、ライド・映像・音響・身体運動が交差するインスタレーションとして構成され、身体を開き覚醒させる実験的環境となった。



バランスからだ自転車

続いて11月には、赤松正行は「バランスからだ自転車」を養老公園（岐阜県）にて開催した。ハンドル反転自転車、ペダル逆転トライク、逆さま眼鏡付き自転車、連結自転車など多様な改造車両を試乗可能な形

式とし、視覚のズレや操作感覚の違和感を通じて身体の再知覚を促す試みが展開された。これにより、自転車は移動手段を超えて、身体と世界の間を繋ぎ替える「覚醒装置」として再定位された。



古地図ライド

学生実践では、「古地図ライド」を中心に、歴史的・災害後の地域、公害都市、郊外空間を走行し、古地図・航空写真と現在の風景を比較する調査を継続した。福島（浪江町）や広島をはじめとする各地で、役場跡地、学校跡、防災センター、旧街道、神社・城跡を巡り、失われた景観や忘却された歴史を身体によって再発見する実践が進められた。距離・速度・身体感覚・時間意識のズレを伴う走行行為は、世界の再起動を伴う身体的儀礼として機能した。株式会社シマノ主催による第8回「ソーシャルx散走」企画コンテストでは、24チーム115名の中から大賞を受賞した。



Critical Flow

並行して、赤松正行は「快樂原則」を基盤に、多地域で小規模ライドや都市観察を実施した。風、速度、光、路面、交通密度など、走行環境を構成する諸条件が身体感覚へ与える影響を観察し、その成果は福島県小名浜での記録を含めてCritical Cyclingに連載としてまとめられた。また、過去の記事・写真・記録を横断的に回遊できるウェブアプリ「Critical Flow」を開発し、走行中に生じる偶然性をウェブ空間へ拡張する装置として提示した。なお2026年3月には、Critical Cyclingの活動10周年を記念した展覧会を開催し、プロジェクトの成果を展示した。



モビル文学

さらに、「モビル文学」(志村翔太)を異なる文化圏・都市インフラの下で検証すべく、ザンビア・エジプト・イギリスで展開した。ザンビアでは約二ヶ月の滞在制作を行い、自転車の社会的役割や移動文化を調査し、その成果を新作として発表した。また「モビル文学」は文化庁メディア芸術クリエイター育成支援事業に採択され、2026年2月に東京都内で個展を開催した。加えて、小型神輿を自転車に搭載して集団走行する「MIKOSHI RIDER」(志村翔太・小南菜子)を発表し、移動と祝祭性を接続する新たなパフォーマンス表現を実現した。これらの実践から、身体運動から生成される言語表現は都市インフラや文化的背景に応じて変容すること、移動が地域固有の物語性や祝祭性を喚起することが検証された。

赤松正行

クリティカル・サイクリング展〜この大きな空の下、風になる〜

2016年に活動が始まったクリティカル・サイクリングは、今年で10周年を迎えます。これを記念して2日間の展覧会を開催します。クリティカル・サイクリングは自転車に乗ることを批評するグループであり、メンバーの活動はこのWEBサイトに記録されてきまし

<https://criticalcycling.com/2026/02/critical-cycling-exhibition/>



早朝耐寒ライド 2026 Winter ~古地図散走~

来る2月22日に、クリティカル・サイクリングと運動体設計の共催による早朝耐寒ライドを行います。こちらはIAMASの卒展のイベントとして行われ、どなたでもご参加いただけます。近隣の方はもちろん、遠方の方もぜひお越しただいて、ライドの後に卒展

<https://criticalcycling.com/2026/01/morning-ride-2026-winter/>



快樂原則 21: AIグラス

クラウドファンディングで支援していたRokid社のRokid Glassesが昨年末に届いた。いわゆるAIグラスで、メガネをかけて話しかけるとスマートフォンと連動して生成AIが音声と画像で答えてくれる。フレームの端にはカメラが備わっていて、写真や動画の撮影

<https://criticalcycling.com/2026/01/pleasure-principle-21-ai-glasses/>



快樂原則 20: 香港

12月下旬、ペナン島の後はストップ・オーバーで香港に滞在した。これまでに何度か訪れた印象では、香港は極端な過密都市であり、道路は凄まじい交通渋滞、自転車なんて危険極まりないと思っていた。ところが、少し調べてみると郊外にはサイクリング・コ

<https://criticalcycling.com/2025/12/pleasure-principle-20-hong-kong/>



快楽原則 19: ペナン島

「いつか見に行くペナン島の自転車」は「ようやく見に来たペナン島の自転車」になった。先の記事から3,133日、8年半も経っている。香港での乗り継ぎを含めて半日以上フライトで到着したのは深夜。翌朝早くに宿の近くでシェア自転車を借りてを漕ぎ出

<https://criticalcycling.com/2025/12/pleasure-principle-19-penang/>



快楽原則 18: バランス

養老天命反転地 30周年記念イベント「養老天命反転中！ Living Body Museum in Yoro」のプログラムとしてワークショップ「バランスからだ自転車」を開催した。天候に恵まれ晴れ渡った大きな空の下、摩訶不思議な自転車に悪戦苦闘の叫びや、乗りこな

<https://criticalcycling.com/2025/11/pleasure-principle-18-balance/>



快楽原則 17: ルアン・パバーン

11月初めにラオスのルアン・パバーン (Luang Phabang) に出かけた。アジア最後の秘境ともメコンの宝石とも呼ばれるラオスの、もっとも有名な観光地だ。日本の日常とはかけ離れた、ゆったりとした時間が流れる。ダルな快楽原則に身を任せてポートやトゥ

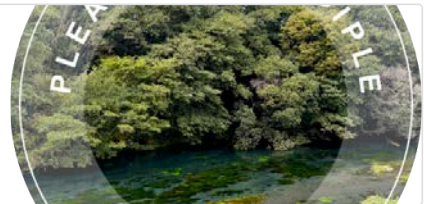
<https://criticalcycling.com/2025/11/pleasure-principle-17-luang-phabang/>



快楽原則 16: 柿田川

日本三大清流のひとつ、柿田川を自転車で周遊した。柿田川？何それ？筆者も知らなかったし、周囲の人に尋ねても誰も知らなかった。ふとした拍子に調べたところ、長良川や四万十川と並び称されるのが聞いたことがない柿田川だった。しかも全長1.2kmの一

<https://criticalcycling.com/2025/10/pleasure-principle-16-kakita-river/>



快楽原則 15: QuantumReader

先日、iPhone/iPad用のアプリQuantumReaderをApp Storeで公開した。画面の上部にカメラ映像が表示されるので、カメラをQRコードやバーコードにかざす。その内容がURLであればWEBサイトを表示し、テキストならWEB検索の結果を表示する。画面に触

<https://criticalcycling.com/2025/10/pleasure-principle-15-quantumreader/>



快楽原則 14: 自転車の街 (プロット)

自転車は快楽原則に従う。しかし、それは自転車に乗る人だけの話かもしれない。かつての筆者がそうだったように、自転車に乗らない人も少なくない。そんな人にとって、自転車は路上の邪魔ものかもしれない。そうこう考えているうちに思考実験としての小

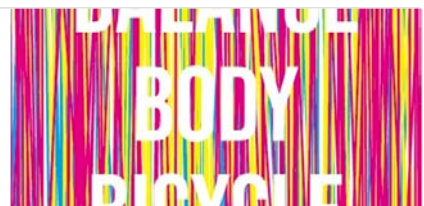
<https://criticalcycling.com/2025/10/pleasure-principle-14-city-of-bicycles/>



バランスからだ自転車 2025

養老天命反転地 30周年記念イベント「養老天命反転中！ Living Body Museum in Yoro」のプログラムとしてワークショップ「バランスからだ自転車」を開催します。これは2018年に行なった同名のプログラムのリバイバルで、バランスを取ることに焦点を

<https://criticalcycling.com/2025/09/balance-body-bicycle-2025/>



快楽原則 13: 軽量バックパック

自転車に適した軽量バックパックの最高峰はRaphaのPro Team Lightweight Backpackだ。筆者は2022年11月に購入して以来3年弱、毎日のように使っている。通勤や買い物など日常用途はもちろん、国内外の旅行にもスーツケースとコレで出かける。大型のリ

<https://criticalcycling.com/2025/09/pleasure-principle-13-backpack/>



快楽原則 12: Critical Flow

クリティカル・サイクリングのWEBサイトの記事の断片が浮遊（Flow）するWEBアプリ「Critical Flow」を作成した。使い方は簡単。藍よりも深いブルーの空間をぼんやりと眺める。いくつかのテキストや写真、動画がゆっくりと現れ、しばし止まり、そして

<https://criticalcycling.com/2025/09/pleasure-principle-12-critical-flow/>



快楽原則 11: フクイチ2025

Onahama Rideの翌日はツール・ド・フクイチ（筆者による造語）に出かけた。2018年、2023年に続いて3回目となる。今回は単独行動であったので、全行程の自転車移動は避けることにした。何しろ7月から8月にかけて連日40°C前後の猛暑だ。避難区域の

<https://criticalcycling.com/2025/08/pleasure-principle-11-fukuichi2025/>



快楽原則 10: 自動車専用道路・小名浜

福島県の小名浜で2025年8月3日、つまり本日、開催されたOnahama Rideに参加した。これは自動車専用道路として開通する小名浜道路を開通前に自転車で行くイベント。直線とクロソイド曲線を活かした真新しい高品質舗装道路が開放される貴重な機

<https://criticalcycling.com/2025/08/pleasure-principle-10-onahama-ride/>



快楽原則 09: ドーハ

ザンビア滞在の後、帰路の途中で砂漠の小国カタールの首都ドーハに立ち寄った。トランスファーで早朝到着して深夜出発なので、ほぼ一日かけて市内観光ができる。そこで入国手続きを行い、地下鉄の一日パスを買って市街地のコーニッシュ（Corniche）海岸

<https://criticalcycling.com/2025/07/pleasure-principle-09-doha/>



快楽原則 08: リヴィングストーン

ザンビア滞在中にはリヴィングストーンにも出かけた。ヴィクトリアの滝やお隣のチョベ国立公園など観光客モードで物見遊山と洒落込む。ルサカからは飛行機で1時間少々。普通の定期航路便なのに、わざわざ遠回りしてヴィクトリアの滝を2回も周回してくれ

<https://criticalcycling.com/2025/07/pleasure-principle-08-livingstone/>



快楽原則 07: ルサカ

6月下旬にザンビアに赴いた。アフリカ大陸の中央南部に位置する内陸国だ。20年来の知人の出身地であり、卒業生がアーティスト・レジデンスとして滞在することを契機に、人類発祥の地アフリカの大地を自転車で走りたいと思ったからだ。とは言え、簡単

<https://criticalcycling.com/2025/07/pleasure-principle-07-lusaka/>



快楽原則 06: テスラにリア・キャリア

テスラ（TESLA）のモデルY（Model Y）に念願の自転車用リア・キャリアを取り付けた。日本では純正のトゥ・パッケージが未発売ながら、知人に教えられたテスラ専門店 GarageXは「できますよ」と心強い返事。早速お願いしたところ、アメリカから商品の

<https://criticalcycling.com/2025/06/pleasure-principle-06-rear-carrier/>



快楽原則 05: 続々・Apple Vision Proの周辺視野

知人に勧められたApple Vision Pro用のヘッド・ストラップを購入したところ、これが素晴らしかった。こめかみあたりから斜め前に伸びて額の上部を覆うストラップだ。しかも、ライト・シールを取り外してApple Vision Proを使うこともできる。ちょうどデ

<https://criticalcycling.com/2025/06/pleasure-principle-05-peripheral-vision-3/>



IAMAS周辺ライド #11 自噴水 7km

今回のIAMAS（情報科学芸術大学院大学）周辺ライドでは周辺に点在する自噴水を巡る。自噴水とは、その名の通り、地中から自然に湧き上がる水であり、自噴泉とも呼ぶ。IAMASの所在地である大垣市は、世界的にも珍しい自噴水が多いことで有名。これ

<https://criticalcycling.com/2025/05/iamas-ride-11-artesian-water/>



快楽原則 04: 長良川

知人に誘われ、黄金週間にグループ・ライドに出かけた。日本三大清流のひとつ、長良川の上流までローカル鉄道で輸送し、そこから川沿いに中流まで下るコース。Appleマップでの自転車ルートでは約60km弱、多少のアップ・ダウンがありながらも、ひたす

<https://criticalcycling.com/2025/05/pleasure-principle-04-nagara-river/>



快楽原則 03: 自律ドローン

自転車に乗って風になる。この時、鳥に導かれるだけでなく、ドローンを従えることもできる。多くの製品が追従機能を備え、疾走する自転車を自動的に追いかけるからだ。なかでも、DJI Flipはエントリー・モデルながら、手軽さで他を抜き出ている。何し

<https://criticalcycling.com/2025/04/pleasure-principle-03-autonomous-drone/>



快楽原則 02: 風になる

自転車に乗ると風になる。ジョディ・ローゼンが宇宙を旅する自転車を取り上げて述べたように、乗り手は重力から解放され、自転車は滑空するように進むからだ。特に追い風であれば更に軽やかに進む。そして風と同じ速度になれば、身体に受けるはず

<https://criticalcycling.com/2025/04/pleasure-principle-02-becoming-the-wind/>



快楽原則 01: ダーク・ツーリングからサイクリング・エッジ、そして快楽原則へ

情報科学芸術大学院大学（IAMAS）のプロジェクト実習「運動体設計」の一環として、2023度はダーク・ツーリング（Dark Touring）、2024年度はサイクリング・エッジ（Cycling Edge）と銘打って活動を行ってきた。これは授業という狭い範囲にとどまら

<https://criticalcycling.com/2025/04/pleasure-principle-01-start/>



志村翔太

2026年3月までのモバイル文学を振り返る

2月から3月にかけて、クリティカル・サイクリング展を含め4つの展示があり、怒涛のように駆け抜けていった。各地で家族や仲間たち、そして各展示会の関係者の皆さんに大いに助けをいただき、何とか走り抜くことができました。この場を借りてお礼申し上げます

<https://criticalcycling.com/2026/03/mobileliterature/>



自転車のオリジナリティ

先日、僕の自転車を用いた作品や修士研究成果のクレジットや帰属をめぐる、知的財産に関するトラブルがあった。その経験をきっかけに、「自転車におけるオリジナリティとは何か」を考えるようになった。

<https://criticalcycling.com/2026/02/originality/>



志村翔太 個展 《モバイル文学 多摩川アンセム・フォー・マイセルフ》

2026年2月7日から15日まで、ギャラリー南製作所（東京都大田区）で、個展《モバイル文学 多摩川アンセム・フォー・マイセルフ》を開催する。今回の個展は、令和7年度文化庁メディア芸術クリエイター育成支援事業 国内クリエイター発表支援プログラムの成

<https://criticalcycling.com/2026/01/anthem-for-myself/>



地元でチャリに乗る

長旅や2025年内全ての作品発表を終えて、近頃はすっかり生まれ育った神奈川県川崎市に拠点を移し、文化庁メディア芸術クリエイター育成事業に採択されたので2月に開催する個展の準備を進めている。地元で制作した作品を個展で発表予定だ。

<https://criticalcycling.com/2025/12/hometown/>



俺はどうしても神輿をチャリに乗せて走って見たかった

自分が調べた限りにおいては神輿を自転車に乗せた過去の事例は発見出来ず、おそらく人類史におけるチャリに神輿を乗せた存在・概念のオリジンになれたと思います。

<https://criticalcycling.com/2025/11/mikoshirider/>



MIKOSHI RIDER - MAKE FRIENDS -

願いは願い続ければ叶うもので、遂に執着は身を結び、現在開催中の東京舞台芸術祭内の公募プログラムにて、来る11月1日（土）から11月3日（月・祝）の3日間、「MIKOSHI RIDER - MAKE FRIENDS -」を発表する。神輿を乗せたチャリ is coming soon であ

<https://criticalcycling.com/2025/10/mikoshi-rider/>



ロンドンで自転車に乗る

London Calling, 滞在制作をしていたザンビアからケニアでのトランジットを経てロンドンへ降り立った。子供の頃からの大スターOasisの16年ぶりの再結成ライブへ参加するためである。

<https://criticalcycling.com/2025/09/london/>



ルサカで制作した自転車作品

ダウンタウンの喧騒をかき分け、自転車屋を探し、値段交渉をしてようやく自転車を手に入れる。市場やホームセンターへ行って配線用のケーブルやライトを探し回る。ジェスチャーと片言の英語で「こんなものが欲しい」と伝えると、面白がって一緒に探して

<https://criticalcycling.com/2025/08/lusaka-2/>



ルサカで自転車に乗る

突然ですが、ザンビア🇿🇼がアフリカ大陸のどのあたりにあるかご存知だろうか？ザンビアは北東にタンザニア、東にマラウイ、南東にモザンビーク、南にジンバブエ、南西にボツワナとナミビア、西にアンゴラ、北西にコンゴ民主共和国と国境を接するアフリカ

<https://criticalcycling.com/2025/07/lusaka/>



カイロで自転車に乗る


5月上旬から末日にかけて、3週間ほどエジプトに滞在した。その大半を首都カイロで過ごしたのだが、最高気温が42度に達する日もあり、街全体が暑さに霞んで見えた。間くところによれば、エジプトの本格的な夏は6月から8月にかけて訪れ、さらに厳しい暑さ

<https://criticalcycling.com/2025/06/cairo/>



グループライドは祝祭だ

前回の記事では、インドネシアのアート・コレクティブ、ルアンルパが掲げた「Make Friends」という理念を起点に、政治哲学者カール・シュミットが唱えた「友敵理論」と対比させながら、ひとつの問いを立てた。

 <https://criticalcycling.com/2025/05/make-friends-2/>



MAKE FRIENDS

たとえば、誰かと一緒に自転車で走っているとき。言葉を交わさずとも、呼吸のタイミングがふと合うことがある。自転車とは不思議な乗り物だ。それは個人の移動手段でありながら、並走したときにだけ現れる、一時的な共同性を秘めている。しかもその共同

 <https://criticalcycling.com/2025/04/make-friends/>

